高崎市文化財調査報告書　第 462 集

本郷久保田遺跡

― 工場建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 ―

２０１９

三 進 工 業 株 式 会 社
高 崎 市 教 育 委 員 会
有限会社 高澤考古学研究所

例　言

1　本書は、群馬県高崎市吉井町本郷字久保田 592-1、593、594、595-1、597-1、597-2、598-2 に所在する「本郷久保田遺跡」（高崎市遺跡調査番号 748）の発掘調査報告書である。
2　調査は、工場建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査として実施した。
3　発掘調査から整理作業を経て、報告書刊行に至るまでの一連の作業は、三進工業株式会社様の費用負担によって行われた。
4　発掘調査および整理作業は、高崎市教育委員会の指導・監理のもと、有限会社 高澤考古学研究所が実施した。
5　調査体制は、以下の通りである。
高崎市教育委員会文化財保護課・有限会社 高澤考古学研究所　澤田 福宏
6　発掘調査は、平成 30 年 10 月 15 日から平成 30 年 11 月 16 日までの期間で実施した。調査面積は 690㎡である。
7　本書の編集は、有限会社 高澤考古学研究所の澤田が行った。執筆は I を高崎市教育委員会文化財保護課が、それ以外を澤田が行った。
8　基準・水準点測量および遺構平面図測量はタナカ設計に委託した。
9　空中撮影は加藤空撮に委託した。
10　遺構および遺物撮影は、澤田が行った。
11　発掘調査から整理作業に従事した者は、以下の通りである。（敬称略、50 音順）
小林 貴子・坂本 郁夫・澤田 美枝子・澤田 恵美・清水 萬年・円谷 純・冨澤 幸夫・富田 正広・畠山 弘輝
松田 久男・宮口 勝司・渡 明秀
12　発掘調査から報告書刊行に至るまでに、下記の機関、諸氏に協力を賜った。（敬称略、50 音順）
吉井建設株式会社
13　発掘調査により得られた資料および出土遺物は、一括して高崎市教育委員会に保管してある。

凡　例

1　遺構挿図中に使用した方位記号は座標北を、水準線は標高を示す。座標は国家座標Ⅸ系を使用した。
2　土層注記の色調は、農林省農林水産技術会議事務局（財）日本色彩研究所監修「標準土色帖」を使用した。
3　本書で使用した地図は、第 1 図が国土地理院発行数値地図 1/25,000 地形図を、第 2 図は国土地理院発行数値地図 1/2,500（高崎市都市計画基本図）を使用した。
4　掲載図の縮尺は、各キャプションおよび各図に示した通りである。
5　掲載図中に使用した断面図において、使用面は太線で表現した。
6　本書で使用した火山噴出物の記述は以下の通りである。
As-B　…… 1108 年（天仁元年）降下「浅間 B 軽石」
As-A　…… 1783 年（天明 3 年）降下「浅間 A 軽石」

目次

例言・凡例・目次
Ⅰ　調査に至る経緯…… 1
Ⅱ　調査の方法と経過…… 1
Ⅲ　遺跡の地理的環境と周辺遺跡…… 2
Ⅳ　基本堆積土層…… 4
Ⅴ　調査の成果…… 6
Ⅵ　総括　…… 8
写真図版
参考文献・抄録

挿図・挿表目次

第１図　周辺遺跡図（1/25,000）…… 3
第２図　遺跡位置図（1/2,500）…… 4
第３図　基本堆積土層　柱状図・写真…… 4
第４図　遺跡全体図（1/150）…… 5
第５図　水田跡　畦畔エレベーション図（1/30）　ポイント標高は全てL=119.00m…… 6
第６図　１～４号土坑　平面図・断面図…… 7
第７図　５号土坑・耕作状遺構・溝　平面図・断面図…… 8

写真図版

PL1：空撮写真　PL2：調査写真　PL3：調査写真　PL4：調査写真　PL5：調査写真

Ⅰ　調査に至る経緯

平成30年5月下旬、事業者である三進工業株式会社から高崎市吉井町本郷において計画している工場建設工事に先立つ埋蔵文化財の照会が市教育委員会文化財保護課(以下、市教委と略)にあった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である吉井地区№50遺跡内に所在するため、工事前に文化財保護法第93条第1項の規定による届出が必要である旨を回答した。同年6月22日には、市教委へ埋蔵文化財確認調査依頼書が提出され、同年8月8日に確認調査を実施した。その結果、平安時代の水田跡と水田に伴う畦畔を確認した。この結果をもとに事業者と市教委で協議したが、現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。なお遺跡名については「本郷久保田遺跡」とした。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要項」に順じ、平成30年10月4日に三進工業株式会社・有限会社高澤考古学研究所・市教委での三者協定を締結、また翌日に三進工業株式会社と民間調査機関有限会社高澤考古学研究所との間で契約を締結し、調査の実施にあたって市教委が指導・監督をすることとなった。

Ⅱ　調査の方法と経過

高崎市教育委員会による試掘調査の結果、遺構確認面までは現地表から約40㎝下であることが確認されている為、平成30年10月22日に重機にて表土を除去し、As-B粒を若干残した状態まで下げた。その後ジョレンを用い人力にてAs-B粒を除去し、遺構確認作業を行った。結果、試掘通り平安時代の水田跡と、それに伴う畦畔、水田跡より新しい溝と土坑が検出された。

検出された溝、土坑は埋没状況を確認する為、土層観察用のベルトを残しながら、掘り下げ作業を行った。水田面および畦畔は移植ゴテを使用しAs-B軽石を除去し、水田面の状態や畦畔の起伏、水田付帯施設の有無などに留意しながら調査を行った。

検出された遺構は、トータルステーションを使用して平面図を作成し、断面図およびエレベーション図は手実測にて作成した。遺構撮影は、35㎜小型一眼レフカメラを用い、カラーリバーサル、モノクロームネガの2種類のフィルムを使用し、1010万画素の小型一眼レフデジタルカメラを併用した。全ての遺構の調査が終了した後、ラジコンヘリコプターにて空撮を実施し、併せて各遺構の全景撮影を行った。その後、基本土層を確認する為に深掘りを行い、畦畔の構築状況を確認する為に畦畔の断ち割り調査を行った。平成30年11月15日に高崎市教育委員会の発掘作業完了確認を受け現地調査を終了した。

10月18日　現場調査準備
10月22日　重機による表土除去作業開始・遺構確認作業
10月29日　重機による表土除去作業終了・基準水準点測量・水田面検出作業開始
10月31日　1～4号溝検出
11月1日　1号土坑・耕作跡検出・各遺構掘り下げ作業
11月7日　各遺構土層断面撮影および計測作業
11月13日　水田跡および各遺構調査終了　高崎市教育委員会による発掘作業完了確認
11月14日　空撮・畦畔断ち割り調査
11月15日　基本堆積土層確認作業・トータルステーションによる各遺構の平面測量
11月16日　現場撤収作業・本日にて現地調査終了

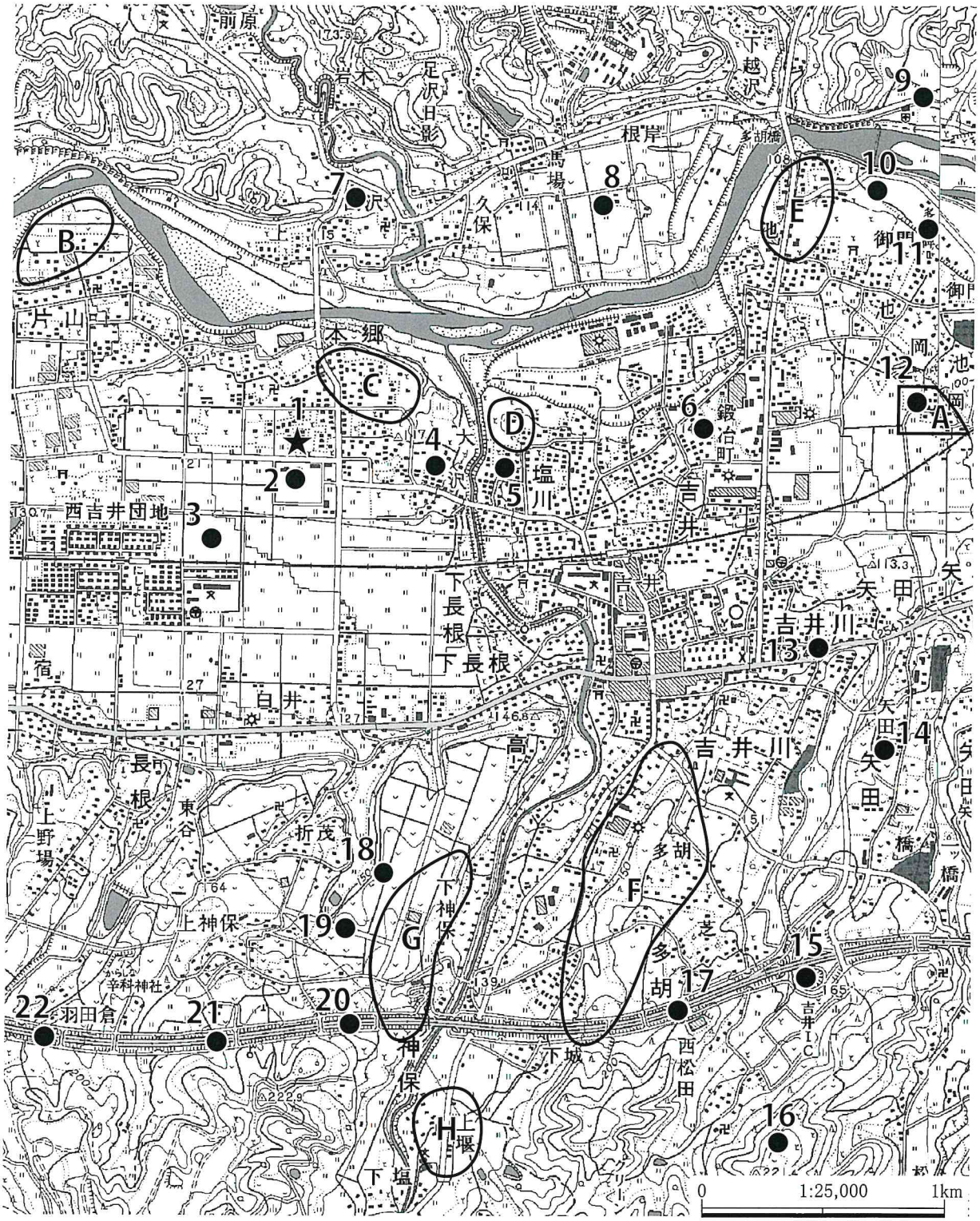
Ⅲ　遺跡の地理的環境と周辺遺跡

群馬県高崎市は、関東平野の北西端に位置しており、西に浅間山、妙義山、北に広大な扇状地を持つ榛名山、赤城山、そして南西から南方にかけては御荷鉾山系、秩父山系等の山々に囲まれ、南東に広大な関東平野を望むことができる環境にある。

本郷久保田遺跡は、市立吉井西中学校の北 100m にあり、北約 450m には長野県境に源を発する鏑川が流れている。この鏑川は、右岸に発達した３段の河岸段丘を形成しており、南側から流れ込む小河川による侵食を受け、細かく分断されている。本遺跡は、天引川と大沢川に分断された下位段丘上にあり、標高は 119.5 mである。

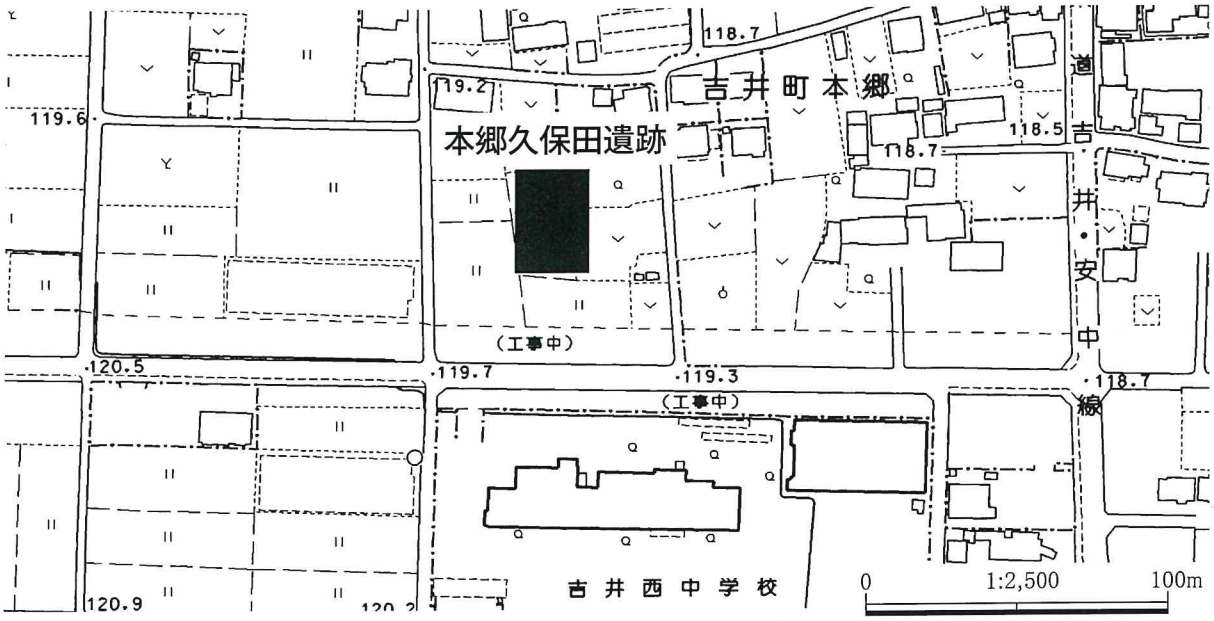
周辺での遺跡は、旧石器時代においては上信越自動車道の発掘調査にて、神保植松遺跡（20）、多胡蛇黒遺跡（17）等で確認されている。ともに中位段丘上にあり、ＡＴ層下から確認されている。縄文時代前期になると集落が形成され始め、椿谷戸遺跡（14）、多比良笠掛遺跡（16）等で調査され、塩川砂井戸遺跡（5）では後期前半の列石を伴う柄鏡形敷石住居が検出されている。弥生時代中期頃までの遺跡は少ないが、弥生時代後期になると中位段丘上に集落が増加する。本郷畑内遺跡（4）のように下位段丘上にも少なからず生活の痕跡が伺える。古墳時代前期の集落は弥生時代後期からの遺跡と重なる例が多く、下位段丘にも広がりをみせはじめる。中期の集落は希薄であるが、後期になると集落は急増し、中位段丘面を主体に矢田遺跡（15）、多胡蛇黒遺跡、長根羽田倉遺跡（22）等大規模な集落が形成される。古墳に関しては、後期になり下位段丘面から中位段丘面に群集墳が形成される。右岸下位段丘では、片山古墳群（B）、本郷古墳群（C）、北原古墳群（D）、下池古墳群（E）等が自然堤防状の微高地に選地し、中位段丘では多胡古墳群（F）、神保古墳群（G）等周辺地域で最大規模の古墳群が確認されている。奈良、平安時代においても、前代から継続する集落が多く、規模は更に拡大し大集落を形成する。矢田遺跡、多胡蛇黒遺跡、北高原遺跡（18）、神保境遺跡（19）等は当該期の大集落である。また、本遺跡より北東約 2.3㎞には和銅４年（711）多胡郡の建郡を記録した日本三古碑の１つである多胡碑（11）がある。近年、高崎市教育委員会により多胡周辺遺跡（12）が調査され、正倉と推定される礎石建物跡や法倉と考えられる大型礎石建瓦葺の建物跡が確認された。周辺は正倉院（倉庫群）と想定され、多胡郡正倉跡（A）として保存にむけ確認調査が継続されている。生産跡は、現在では条里地割を認めることはできないが、長根条里（3）と呼ばれる条里区画推定地が本遺跡の南西約 500 mにあり、道六神遺跡（2）では条里地割を留めると推測される溝が検出されている。本遺跡周辺では広域に生産跡が広がっているものと推測される。

牛伏山からの遠景（北を望む）



1. 本遺跡　2. 道六神遺跡　3. 長根条里　4. 本郷畑内遺跡　5. 塩川砂井戸遺跡　6. 雑木味遺跡
7. 東吹上遺跡　8. 富岡遺跡　9. 川福遺跡　10. 上河原遺跡　11. 多胡碑　12. 多胡周辺遺跡
13. 吉井川下宿遺跡　14. 椿谷戸遺跡　15. 矢田遺跡　16. 多比良笠掛遺跡　17. 多胡蛇黒遺跡
18. 北高原遺跡　19. 神保境遺跡　20. 神保植松遺跡　21. 神保富士塚遺跡　22. 長根羽田倉遺跡
A. 多胡郡正倉跡　B. 片山古墳群　C. 本郷古墳群　D. 北原古墳群　E. 下池古墳群　F. 多胡古墳群
G. 神保古墳群　H. 塩Ⅰ古墳群

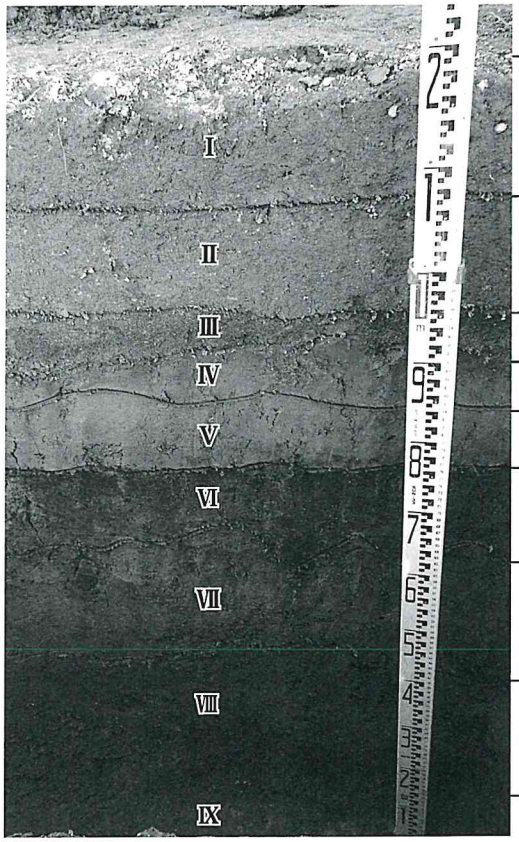
第１図　周辺遺跡図　(1/25,000)



第２図　遺跡位置図　(1/2,500)

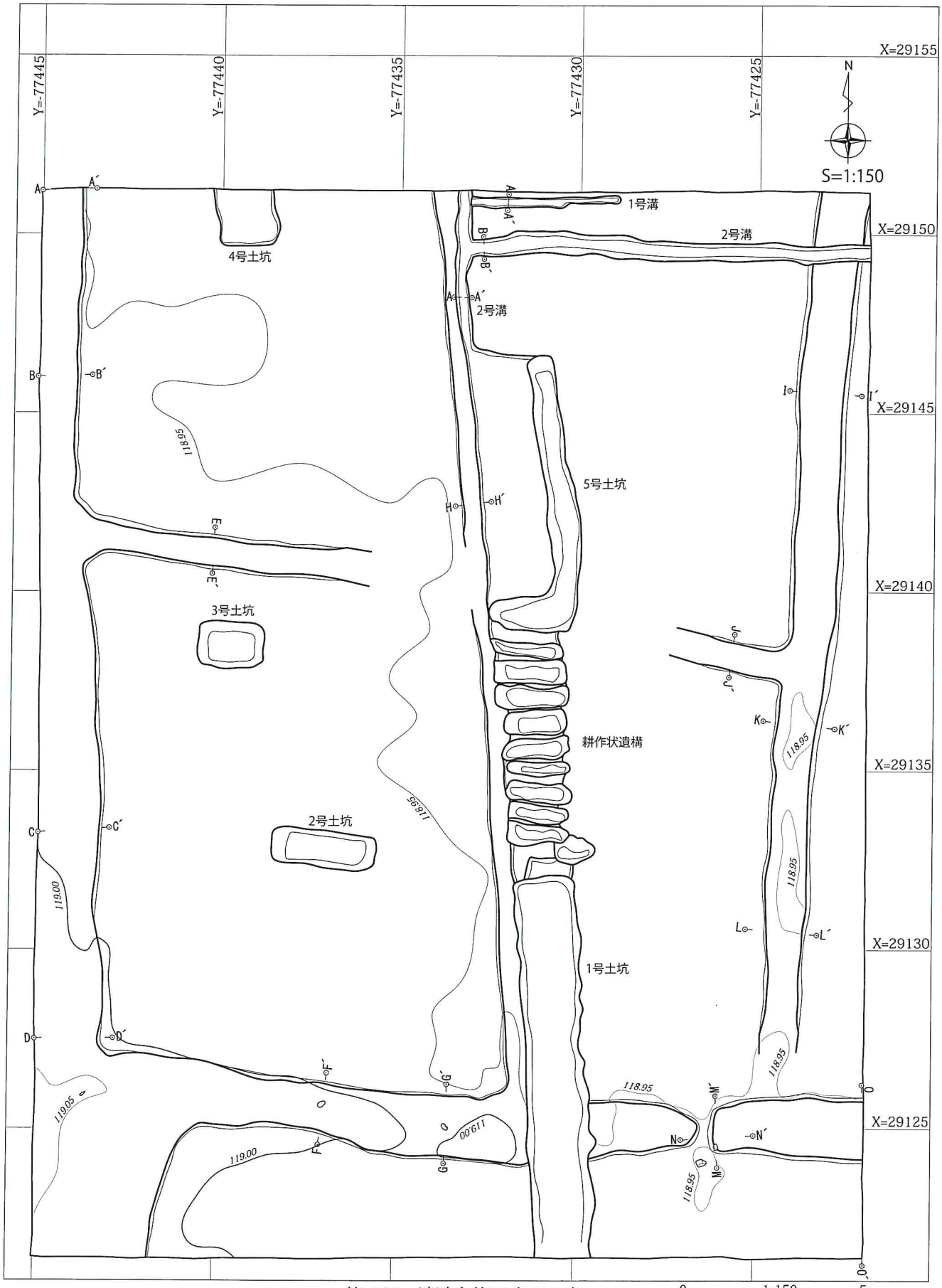
Ⅳ　基本堆積土層

Ⅰ層は現表土で約 10cm程堆積している。Ⅱ層は As-A 粒と As-B 粒の混土で、比較的硬く締まっている。Ⅲ層は As-B 粒を非常に多く含む層で一部純層で認められる。部分的にⅡ層の小ブロックが混じる。水田面は本層の直下である。Ⅳ層は水田耕作土で、粘性があり、黒色化している。Ⅴ層もⅣ層同様水田の耕作土と考えられるが、Ⅳ層より黒色化が弱く暗灰色土である。Ⅵ層は黒色シルトで粘性は弱く非常に硬くしまる。Ⅶ層はやや砂質なシルトで粘性がある。Ⅷ層は若干砂質なシルトで粘性が強い。Ⅸ層は基盤の黄色土で 20cm大の礫を少量含み、５～ 10cm大の礫を多く含む。また、粘性が非常に強い。



	Ⅴ　Ⅴ　Ⅴ	GL ＝ 119.20 m
Ⅰ 表土	現耕作土	
Ⅱ 灰黄褐色土層	As-A 粒と As-B 粒の混土層	
Ⅲ 褐灰色土層	As-B 粒主体　GL － 30cm 遺構確認面	
Ⅳ 灰色土層	水田耕作土　黒色化し粘性あり	
Ⅴ 灰オリーブ色土層	水田耕作土　粘性あり	
Ⅵ 黒褐色土層	硬く締まるシルト	
Ⅶ 黄灰色土層	やや砂質シルトで粘性あり	
Ⅷ 暗黄灰色土層	砂質シルトで粘性、鉄分沈着あり	
Ⅸ 黄褐色土層	礫を含み非常に硬く締まる GL － 120cm	

第３図　基本堆積土層　柱状図・写真



第４図　遺跡全体図（1/150）

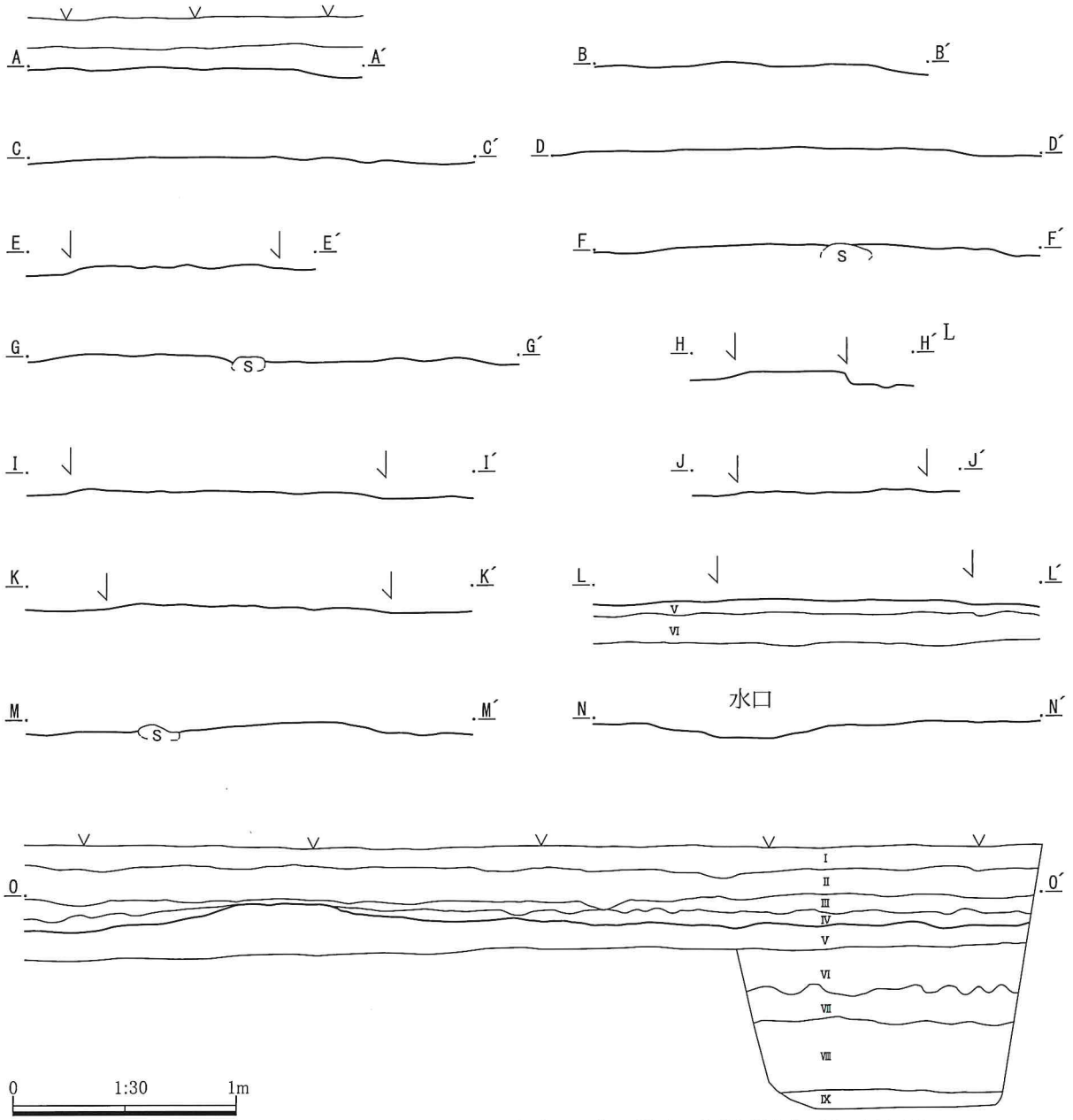
0　1:150　5m

V　調査の成果

発掘調査の結果、As-B 軽石下の畦畔を伴う水田跡と溝２条、土坑５基、耕作状遺構を検出した。調査区ほぼ全域には As-B 軽石主体の層（基本堆積Ⅲ層）が認められ、水田跡は調査区全面にて確認された。As-B 軽石は部分的に純層で堆積している。土坑は調査区中央から西側に多く検出され、溝は調査区北東側で限定して確認された。調査区中央付近には１、５号土坑と接し耕作状遺構が検出された。

水田跡

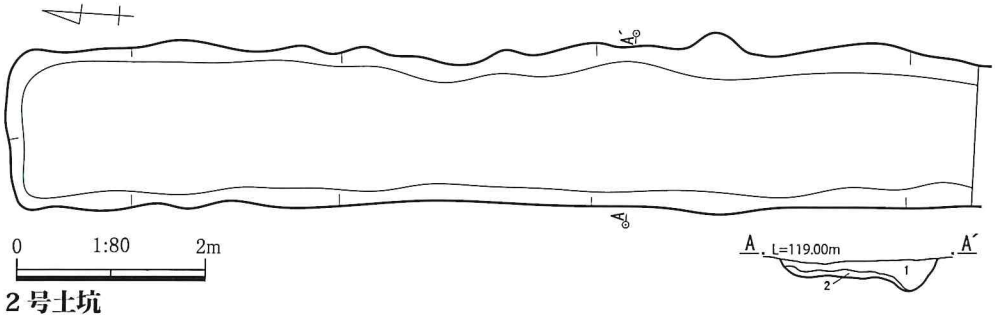
As- B 軽石直下にて、畦畔に区画された計６枚の水田面を検出した。畦畔は南北方向３条、東西方向２条の計５条が確認された。各畦畔の高まりは１～3cm程度と低く、潰れて扁平し不明瞭であるが、南側と西側では比較的明瞭に認識ができた。水田面は灰～暗灰色の粘質土壌で、植物の根痕と推測される３～10cm程の楕円形の窪みが全面に確認できる。全体に南西から北東に緩やかに傾斜しており、南西端と北東端との高低差は約 12cmである。明瞭な水口が１か所確認され、水は南方向から流し入れた考えられる。水口の近くには 20cm大の礫が検出され、水量調整に使用したものと推測される。また畦畔上にも３個礫が検出された。水田面には人間および動物の足跡等は認められなかった。



第５図　水田跡　畦畔エレベーション図（1/30）　ポイント標高は全て L=119.00m

1 号土坑

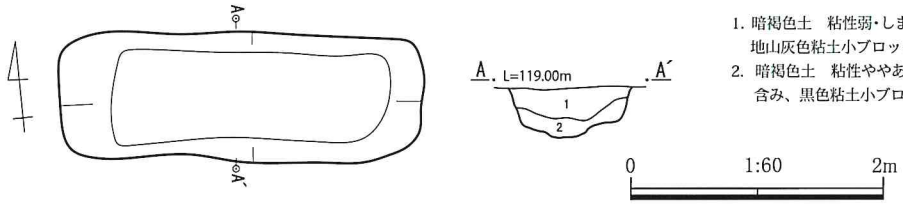
調査区中央南側で検出された。平面は長方形で規模は南北 10.2m 以上、東西 1.7m で確認面からの深さは 32cmである。断面は皿状で底面は平坦である。水田と重複し本遺構の方が新しい。遺物は検出されなかった。覆土には As-A 粒と考えられる白色軽石が多く含まれる。



1. 暗灰色土　粘性弱・しまり弱　3～5mmの As-A 粒をやや多く含み、黒色粘土小ブロックを少量含む。
2. 暗青灰色土　粘性ややあり・しまり弱　1～3mmの白色軽石（As-A 粒か）をやや多く含み、地山灰色粘土小ブロックを少量含む。

2 号土坑

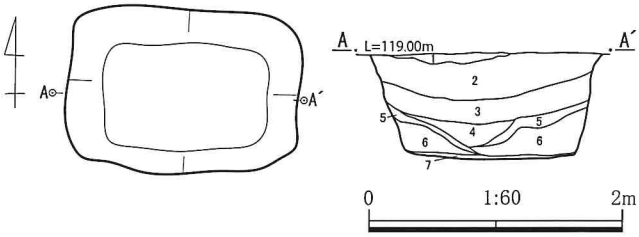
調査区中央西側で検出された。平面は長方形で規模は南北 101cm、東西 281cmで確認面からの深さは 39cm である。断面は箱状で底面はやや皿状である。水田と重複し本遺構の方が新しい。遺物は検出されなかった。覆土には As-A 粒と考えられる白色軽石が含まれる。また、地山の粘質土壌のブロックが多く含まれることから、人為的に埋め戻されたと推測される。



1. 暗褐色土　粘性弱・しまりあり　1～3mmの As-A 粒をやや多く含み、地山灰色粘土小ブロックおよび黒色粘土小ブロックを多く含む。
2. 暗褐色土　粘性ややあり・しまりあり　1～3mmの As-A 粒を少量含み、黒色粘土小ブロックを非常に多く含む。

3 号土坑

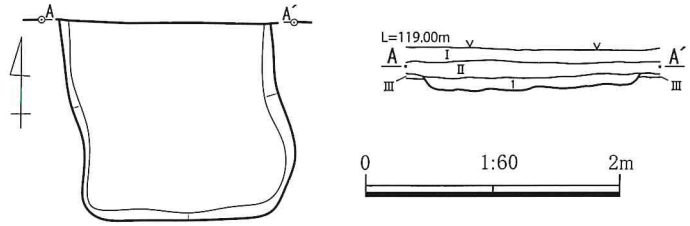
調査区西側で検出された。平面は長方形で規模は長方形で南北 129cm以上、東西 184cmで確認面からの深さは 83cmである。断面は箱状で底面は平坦である。水田と重複し本遺構の方が新しい。遺物は検出されなかった。覆土には As-A 粒と考えられる白色軽石が含まれる。また、地山の粘質土壌のブロックが若干含まれることから、人為的に埋め戻されたと可能性が考えられる。



1. 暗褐色土　粘性弱・しまりあり　1～3mmの As-A 粒をやや多く含み、やや砂質。
2. 暗褐色土　粘性弱・しまりあり　1～3mmの As-A 粒を少量含み、やや砂質。
3. 暗灰色土　粘性弱・しまりあり　粒子の細かい砂粒を多く含み、地山灰色土小ブロックを少量含む。
4. にぶい褐色土　粘性ややあり・しまりあり　3 層とほぼ同じで砂粒が多い。
5. 暗褐色土　粘性あり・しまりあり　黒色粘土小ブロックを多く含み、地山灰色土粘土小ブロックを少量含む。やや砂質。
6. 暗褐色土　粘性ややあり・しまりあり　粒子の細かい砂粒を多く含み、地山灰色土粘土小ブロック、黒色土小ブロックを多く含む。
7. にぶい黄褐色土　粘性弱・しまりあり　1～3mmの礫と粗砂粒を多く含む。

4 号土坑

調査区北西側で検出された。平面は長方形で規模は南北 156cm以上、東西 168cmで確認面からの深さは 9 cmである。断面は箱状で底面は若干凹凸がある。水田と重複し本遺構の方が新しい。遺物は検出されなかった。覆土には As-A 粒と考えられる白色軽石が含まれる。

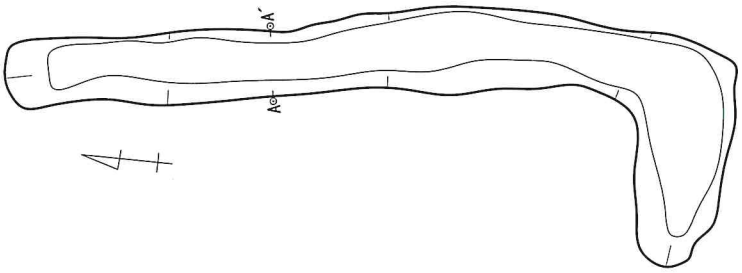


1. 暗褐色土　粘性弱・しまりあり　1～3mmの As-A 粒をやや多く含み、地山灰色粘土小ブロックを多く含む。

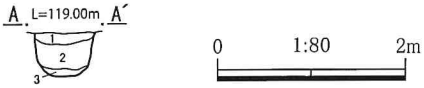
第 6 図　1～4 号土坑　平面図・断面図

5号土坑

調査区北西側で検出された。平面はＬ字状で規模は南北 7.75m、東西 2.45m で確認面からの深さは 46㎝である。断面はＵ字状で底面は平坦である。畠状跡および４号溝と重複し、新旧関係は確認不明であるが、覆土が類似することから同時存在が推測される。遺物は検出されなかった。覆土には As-A 粒と考えられる白色軽石が含まれる。

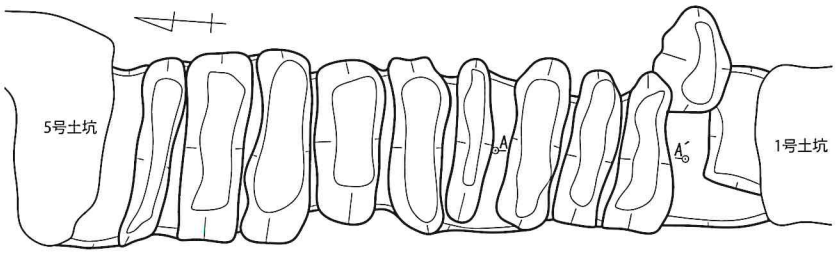


1. 暗灰色土　粘性弱・しまり弱　3～5㎜の As-A 粒をやや多く含み、10㎜大の As-A 粒を少量含む。
2. 暗灰色土　粘性ややあり・しまりあり　1～3㎜の As-A 粒をやや多く含み、地山灰色粘土小ブロックおよび黒色粘土小ブロックを少量含む。
3. 黒褐色土　粘性あり・しまりあり　As-A 粒を少量含み、地山灰色粘土小ブロックおよび黒色粘土小ブロックを多く含む。

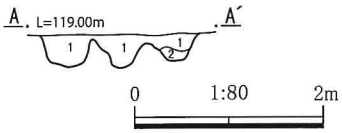


耕作状遺構

調査区北西側で検出された。平面は長方形で規模は南北 6.85m 以上、東西 2.2m で確認面からの深さは 36㎝である。底面は箱状で若干凹凸がある。遺物は検出されなかった。覆土には As-A 粒と考えられる白色軽石が含まれる。

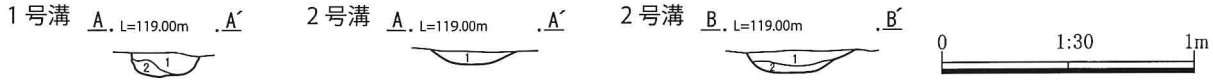


1. 暗灰色土　粘性弱・しまり弱　3～5㎜の As-A 粒をやや多く含み、黒色粘土小ブロックを少量含む。
2. 暗青灰色土　粘性ややあり・しまり弱　1～3㎜の As-A 粒をやや多く含み、地山灰色粘土小ブロックを少量含む。



溝

溝は全て調査区北西側で検出された（平面図は第４図参照）。１号溝は、幅 28㎝、確認された長さは 4.13 mである。確認面からの深さは 9㎝と浅く、東側は確認出来なくなる。２号溝と重複し、本遺構の方が古い。２号溝はＴ字状で北側と東側は調査区外に延長するが、南側は５号土坑付近で不明瞭になり、５号土坑西側に沿うように窪地状になり終息する。幅は 32㎝、確認された長さは南北 4.50 m、東西 11.50 mである。



1. 暗褐色土　粘性弱・しまりあり　1～3㎜の As-A 粒をやや多く含み、黒色粘土小ブロックを少量含む。やや砂質。
2. 黒褐色土　粘性あり・しまりあり　黒色粘土小ブロックを多く含み、粗砂粒を少量含む。

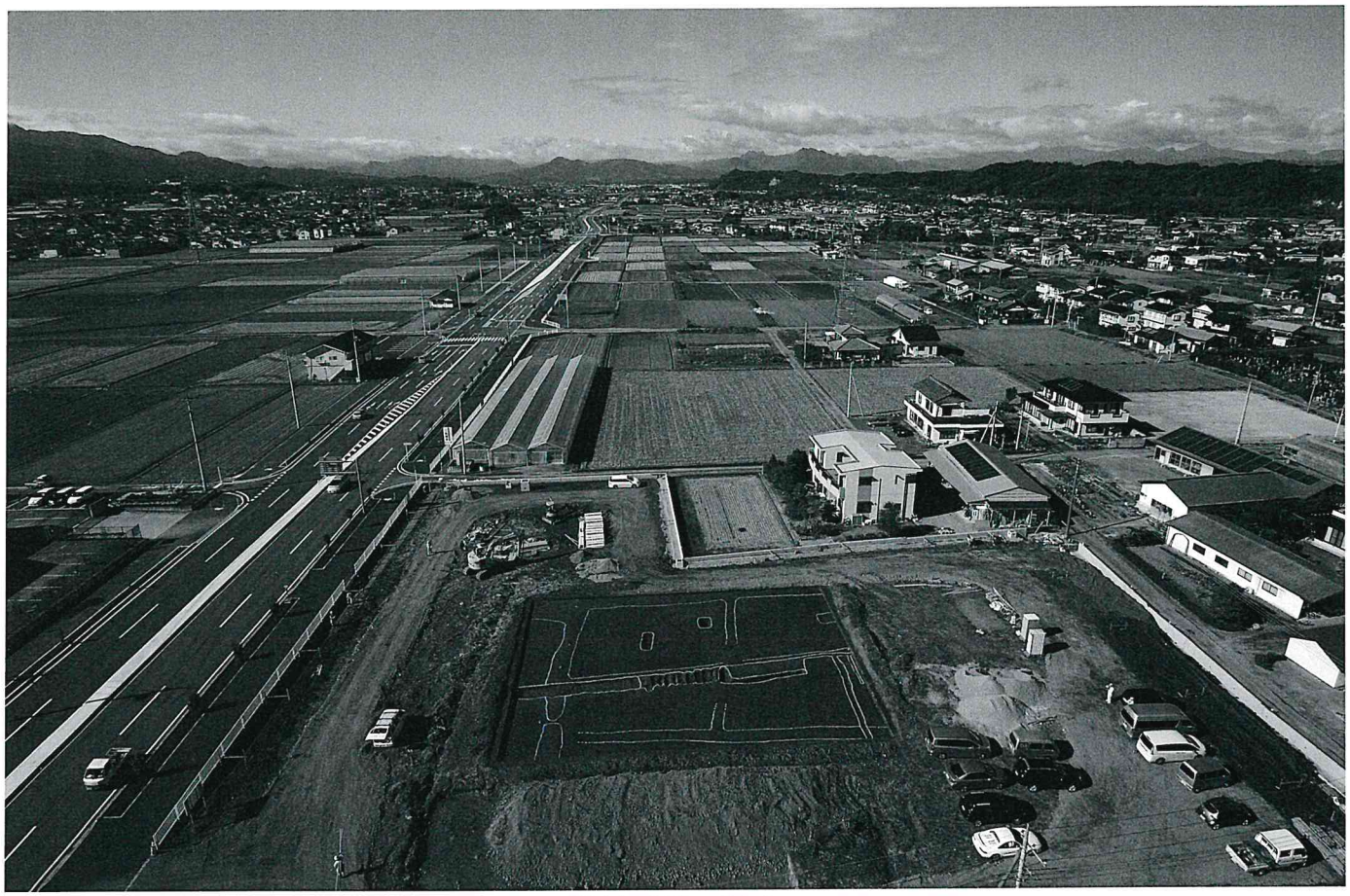
1. 暗灰色土　粘性弱・しまり弱　1～3㎜の As-A 粒をやや多く含み、地山灰色粘土小ブロックを少量含む。
2. 暗褐色土　粘性弱・しまりあり　1～3㎜の As-A 粒を少量含み、地山灰色粘土小ブロックをやや多く含む。

第７図　５号土坑・耕作状遺構・溝　平面図・断面図

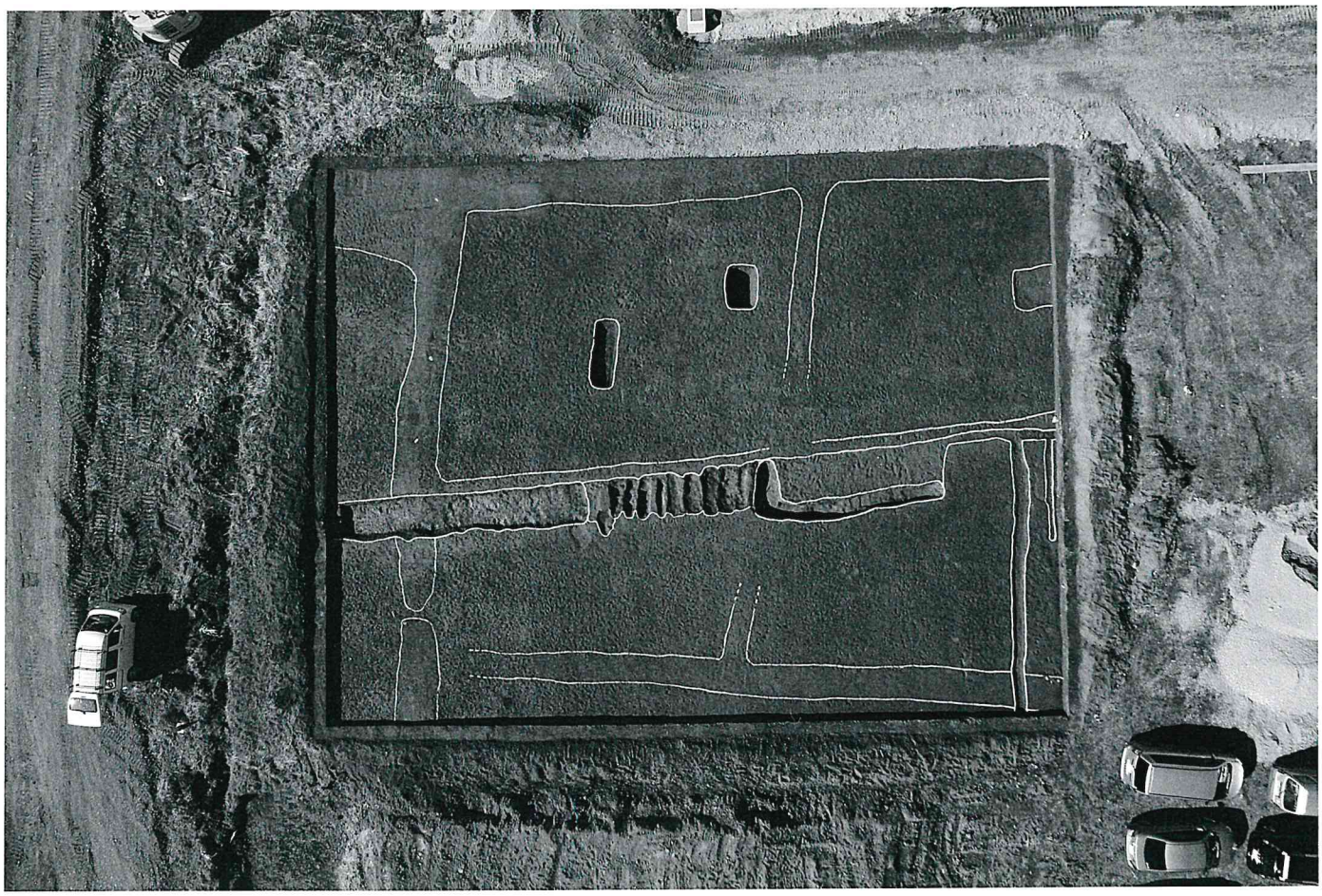
Ⅶ　総括

確認された畦畔によって区画された水田面は計６枚である。中央部の水田が一番広く、南北 14 m、東西 11 mを測る。調査区中央部の南北畦畔は、高まりが非常に低く、また扁平して潰れており畦畔ではない可能性も指摘されるが、As-B 軽石下の直線的な僅かな高まりとして認識された為図化した。調査区南西隅部分は基本堆積Ⅲ層の堆積が認められず平坦面がある。遺構面はこの周辺から若干高くなる為、土地利用の変換点の可能性が推測され、本遺跡の南約 100 mにて調査された道六神遺跡に続くものと考えられる。条里制に則した水田跡は現在の土地利用および地形から本遺跡の南側および南西に広がると考えられ、長根条里へ続くものと推測される。

写真図版

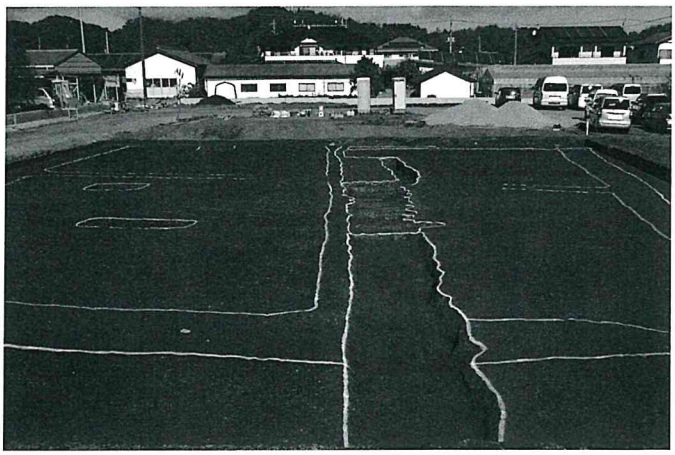


調査区全景　東から

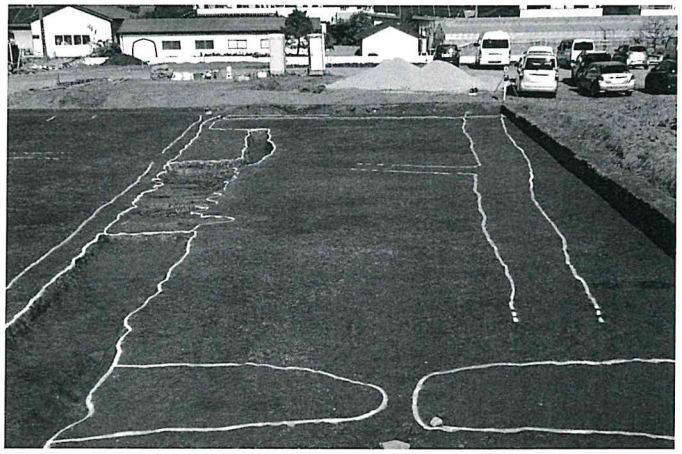


調査区全景　垂直　上が西

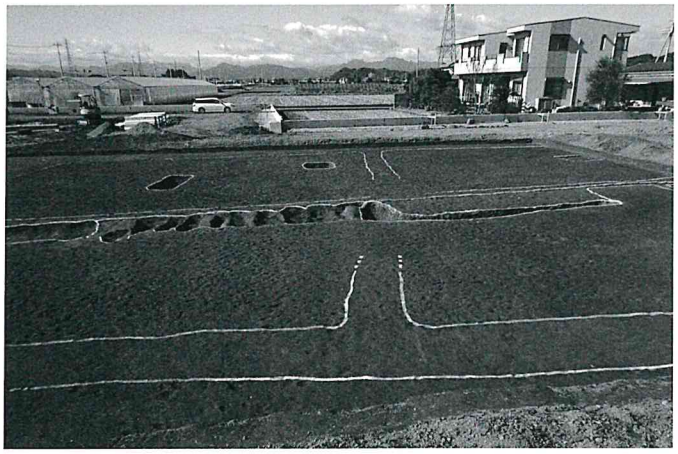
水田跡西側　南から



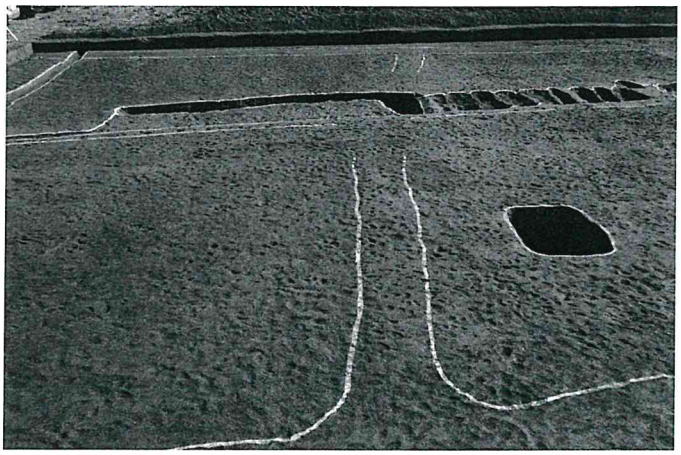
水田跡中央部　南から



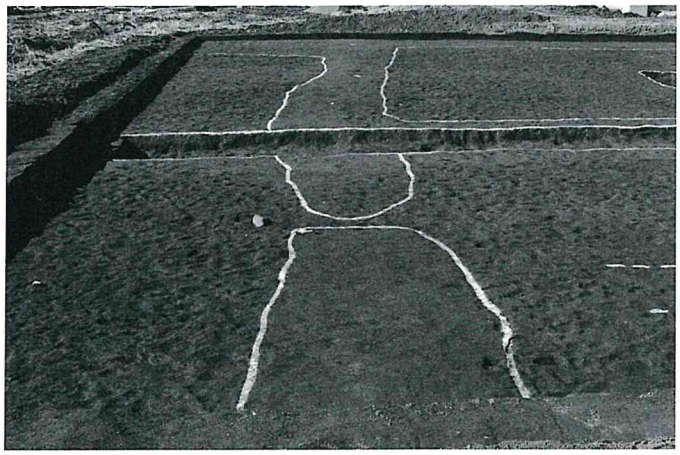
水田跡東側　南から



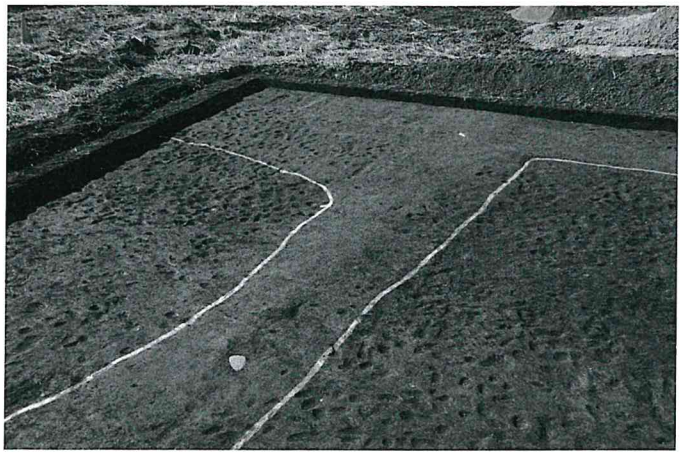
水田跡中央部　東から



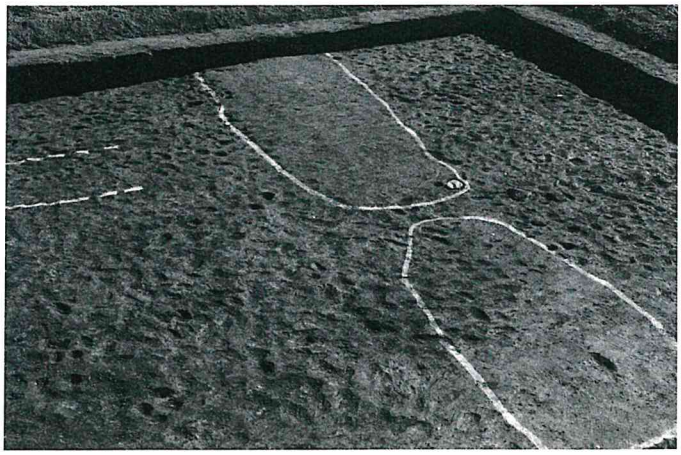
水田跡中央部　西から



水田跡南側　東から

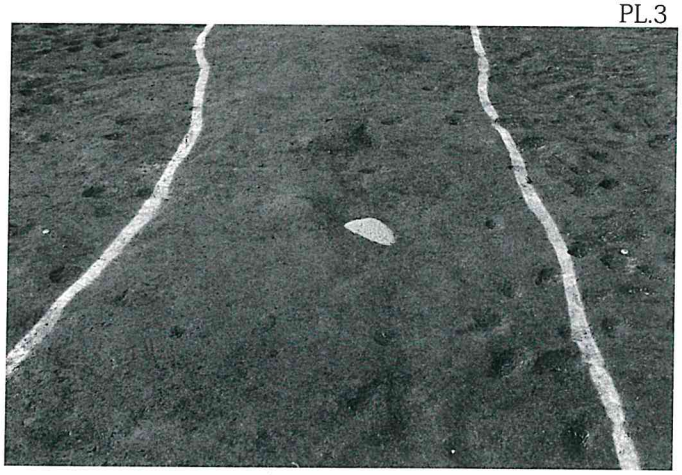


水田跡南西隅　東から



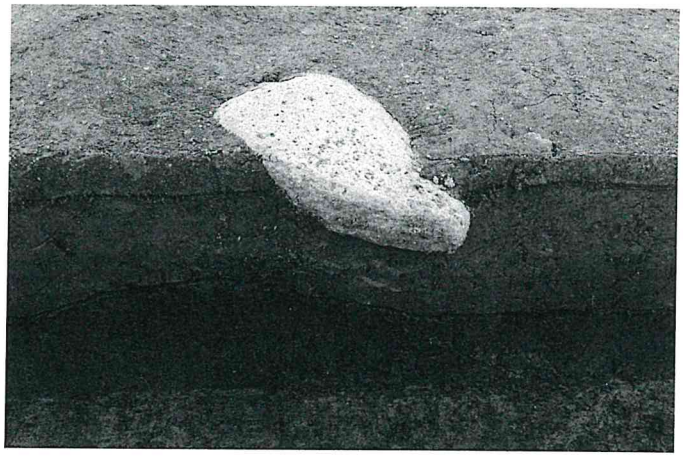
水田跡南東隅水口部　西から

畦畔Ａセクション　南から



畦畔Ｆ　東から

畦畔断割Ｆセクション　東から



畦畔断割Ｆセクションアップ　東から

畦畔Ｏセクション　西から

畦畔断割Ｏセクションアップ　北西から

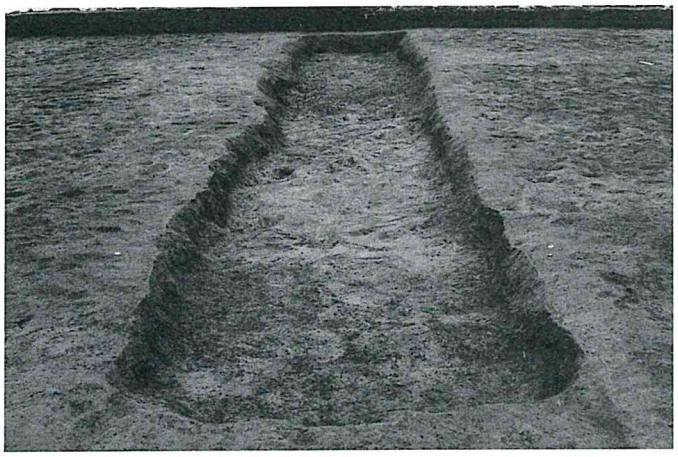
畦畔断割Ｏセクションアップ　西から

畦畔断割Ｋ　南から

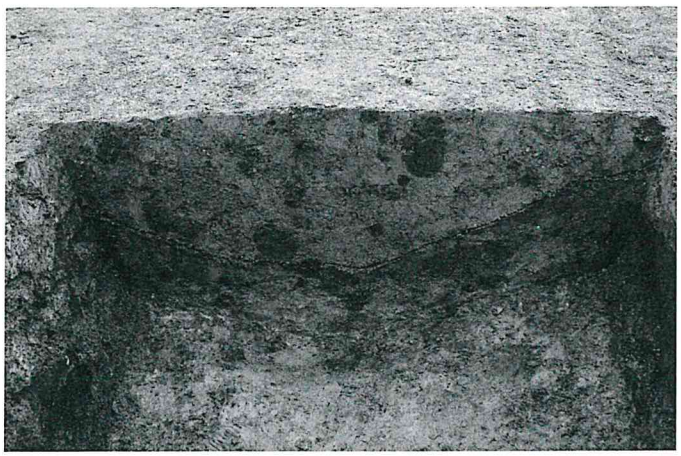
畦畔Ｌ　北から

畦畔Ｌセクション　南から

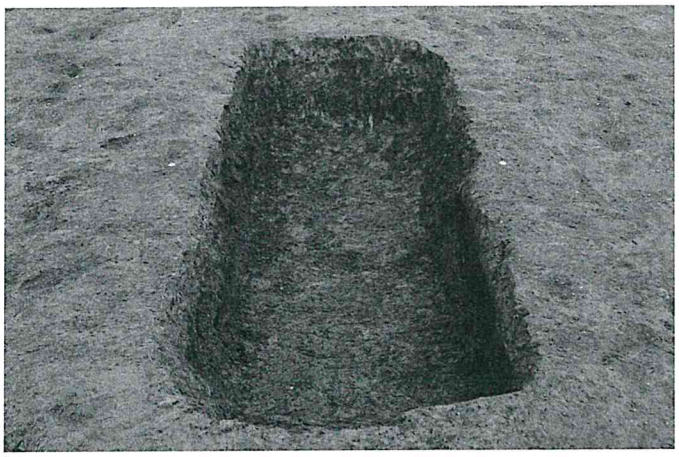
１号土坑Ａセクション　南から



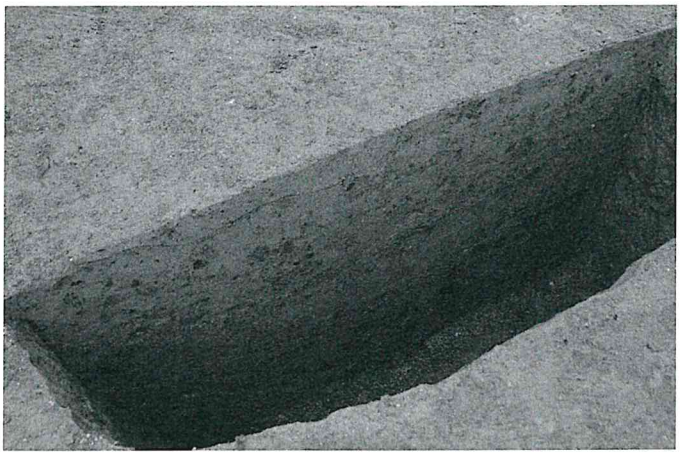
１号土坑全景　北から



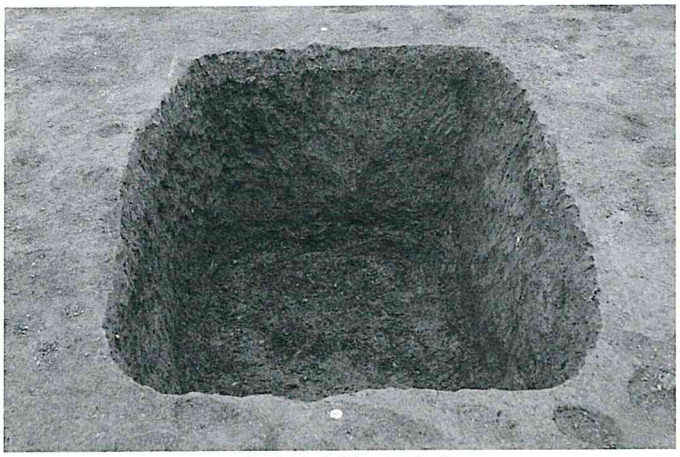
２号土坑Ａセクション　西から



２号土坑全景　西から

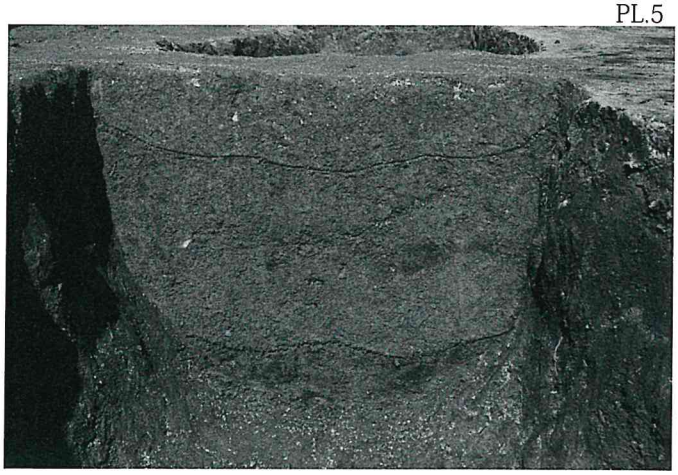


３土坑Ａセクション　南西から



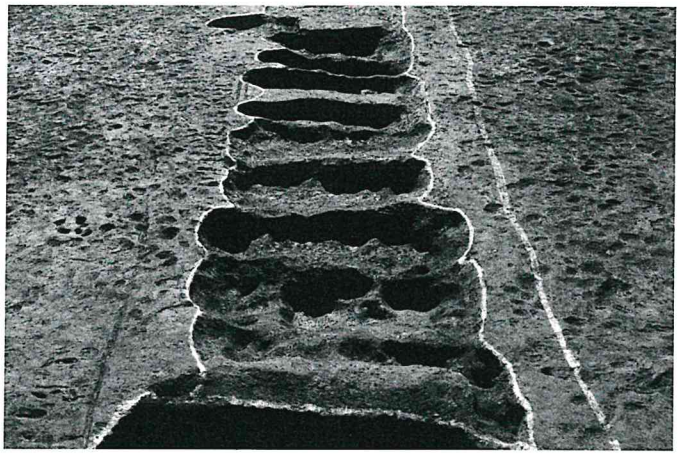
３号土坑全景　西から

4号土坑セクション・全景　南から

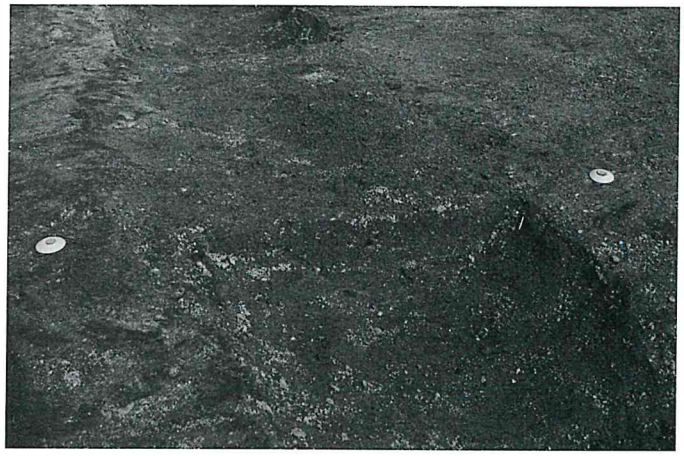


5号土坑セクション　南から

5号土坑全景　南から



耕作状遺構全景　北から



1号溝セクション　西から

1・2号溝全景　東から

表土除去状況　北西から

作業風景　北から

参考文献

吉井町誌編さん委員会　1974『吉井町誌』吉井町誌編さん委員会

茂木 由行　1986『道六神遺跡』吉井町教育委員会

群馬県史編さん委員会　1990『群馬県史　通史編１ 原始古代１』群馬県

高崎市教育委員会　1998『高崎市遺跡分布図』高崎市内遺跡詳細分布調査報告書 高崎市教育委員会

高崎市市史編さん委員会　1999『新編 高崎市史 資料編１ 原始古代Ⅰ』高崎市

高崎市市史編さん委員会　2000『新編 高崎市史 資料編２ 原始古代Ⅱ』高崎市

飯田 陽一　2015『砂川砂井戸遺跡』（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団

報告書抄録

フリガナ	ホンゴウクボタ イセキ
書名	本郷久保田遺跡
副書名	工場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第 462 集
編著者名	澤田 福宏
編集機関	有限会社 高澤考古学研究所
編集機関住所	〒 370-0005　群馬県高崎市正観寺町 665 番地 8
発行機関	高崎市教育委員会　文化財保護課
発行年月日	令和元年（2019）年 10 月 31 日

所収遺跡名	本郷久保田遺跡						
所収遺跡所在地	群馬県高崎市吉井町本郷字久保田 592-1、593、594、595-1、597-1、597-2、598-2						
市町村コード	遺跡番号	北　緯	東　経	調査開始	調査終了	調査面積	調査原因
102020	748	36° 25′ 95″	138° 97′ 16″	20181015	20181116	690㎡	工場建設工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
本郷久保田遺跡	生産跡	平安時代 中・近世～	水田耕作に伴う畦畔・田面 土坑・溝		条里地割に基ずく As-B 軽石下水田

— 本郷久保田遺跡 —

高崎市文化財調査報告書第 462 集

令和元年 10 月 25 日　印刷
令和元年 10 月 31 日　発行

発行　高崎市教育委員会
　　文化財保護課

編集　有限会社 高澤考古学研究所

印刷　上武印刷株式会社